

国分寺市立子ども家庭支援センター運営協議会
第9期第4回記録

日時：平成31年3月9日（土） 午前10時～

場所：子ども家庭支援センター 2階

出席者：委員8名（辻・村松・西脇・小川・石井・砂原・片岡・白井）

事務局：5名（前田室長・野田係長・主代係長・齋藤・橋口）

前田室長：定刻になったので、今年度最後の運営協議会を開催させていただく。

白井会長：出欠と資料確認を事務局にお願いしたい。後ほど応援パートナーの武田さんからも、お話をうかがいたい。

齋藤：本日白鳥委員から欠席の連絡をいただいている。本日の配布資料は、資料No.33から35になる。ページ番号を付番しそびれてしまったので、記入いただきたい。資料No.33が123と124、資料No.34が125と126、資料No.35が127と128になっている。資料No.33は、平成29年度親子ひろば登録統計の考察について（抜粋）ということで用意させていただいている。こちらは記録3ページ中段“肌感覚としては登録や利用は増えている感じなのか”という質問に対し“今回資料に入っていないが登録統計の分析を行っているので、次回その資料を提出させていただきたい”と回答しており、その資料が33と34になる。33は表1、2とあって表1の方が平成28年度と29年度の延べ登録数と重複登録数と登録の実登録数となっている。29年度でいうと表の左側から延べ登録数、こちらは1年間の間にすべての親子ひろばで登録されたすべての件数となっている。これが、3,471件でこのうち国分寺市民の方が2,846件、他市の方が625件だったということである。3,471件のうち右の重複登録数、同一の人が2か所以上で登録すると重複の登録となるが、これが972件、このうち市民の方の重複登録が897件、他市民の方が75件になる。一番右が総登録数（実数）となるが、こちらが重複登録数を除いたもので、これは国分寺市の親子ひろばで登録された子どもの数で、2,499人の子どもの登録がなされたことになる。そのうち市民が1,949、他市民が550件になる。表2については、平成29年及び30年4月1日時点の年齢別市民数と登録数及び登録率となっている。これは、重複登録を除いているので、表1の下段右の1,949件になる。こちらで平成29年度でご案内すると、0歳のところで、平成30年4月1日時点で市民数が926、平成30年度の0歳の登録数は327、登録率は、35%という読み方になる。同様に1歳が1,069人、登録数が610件、登録率が57%、2歳が1,056人の市民がいて、432件の登録数、41%の登録率、3歳が976人、297件、30%となる。一番右は0歳から3歳の計となっていて併せて市民が4,027人、登録数が1,666、登録率が41%となっている。表1の市民の登録数（実数）のところは1,949件に対して、表2は1,666件と300件近く差があると疑問に思われる方がいると思うが、表1に関しては、すべての登録になるので、4歳以上の子どももこの数に含まれている。表2に関しては3歳までの表となっているので、これだけの差があるというふうに見ていただきたい。資料34は、各親子ひろばごとの利用の統計となっていて、過去3年分の記録を入れて

いる。合計の下欄については過去3年分と参考として25、26年度の数字をいれている。資料35は、記録8ページの事例集の相談のルートが小さくてわかりづらいというご意見をいただいたので、大きなものを用意した。取組事例集に載っているものと少し内容がかわっていて、127ページの四角でかこってある子ども家庭支援センター地域担当のところだが、ここに子ども子育て支援コーディネーターという文字があったが、今年度コーディネーターの配置がなかったため削除した。同様に128ページ地域担当のところにコーディネーターの言葉があったが、こちらも削除させていただいた。あとは口頭の説明になってしまうが、記録で白井会長が“3地区拠点ひろば連絡会のなかの高不安健康群が気になっていて、利用者支援事業の目玉になると思うのでこれをどう設定しているか次回教えてほしい”という部分だが、高不安健康群という言葉自体が造語となっている。これは地域担当の方で整理するうえでこの言葉がよいのではないかということで作ったが、その後相談担当と検討した結果、この言葉自体が混乱を招くのでよくないという意見があった。皆様に別冊として配布した児童虐待防止マニュアルの中の7ページにピラミッドがあるが、高不安健康群というのは育児不安群にあたるということで整理させていただいているので今後は高不安健康群という言葉を使わずに育児不安群と同義であると、捉えていただきたい。このところは、ご迷惑をおかけするが、修正をお願いしたい。利用者支援事業の取組事例について、インターネットにでていないということでお話したが、事例集を2部用意した。こちらは他の自治体のもは国分寺市の子ども家庭支援センターが行っている基本型以外が記載されている。今回の運営協議会の中心の話題になるものではないと考えられるので、配布ではなく閲覧という形で回すので、ご覧いただきたい。資料の説明は以上となる。

白井会長：今までのところで、質問や感想をお願いしたい。

委員：資料33の親子ひろばは、他の市民も登録できるのか。

野田係長：基本は市民だが、市境に住んでいる方やお友達が国分寺市にいる方、実家が国分寺市で遠方から実家に帰っていらっしゃる方等拒まず利用いただいている。

白井会長：親子ひろばの利用者層だが私自身は子どもを保育園に通わせていたので親子ひろばを利用したことがなかったが、現在保育園に入園していなくて幼稚園を考えているお子さんが中心なのか、それとも保育園に通っていて、お休みの日に親子ひろばを利用するお子さんが多いのか。

野田係長：保育園に通っている子どもは利用者数からいうと割合は低い。保育園に通っていても必ず月曜日から土曜日まで通園する必要もないので、ときどきお休みをした時にぶらりと親子ひろばに寄って利用したり、土曜日に親子ひろばを利用される方もいる。

白井会長：登録数には入ってくるのか。

野田係長：利用する時に、登録が必要になる。

白井会長：前回残っている事業説明を野田係長をお願いしたい。

野田係長：子ども家庭支援センター地域担当の事業が3つ残っているので説明させていただく。前回までに親子ひろば事業と利用者支援事業の説明をさせていただいた。資料15の29年度事務報告書に沿いながら事業説明をさせていただく。資料15の事務報告書の55ページの子ども家庭支援センター事務事業だが、55ページは相談担当の事業になっているので飛ばして56ページの5番の地域組織化事業と57ページが一番下講習会・イベント等、こちらはその他の事業になっているのでその説明と、61ページ子ども家庭支援センター施設維持管理事務事業の説明をさせていただきたい。地域組織化事業は子育てを行う地域の団体・ボランティア等への支援、及びそれらのネットワークの構築に関する事業となっている。第1回で国分寺子ども子育て支援円卓会議、略し

て円卓会議と呼ばせていただいているが、こちらにあたる。おさらいをさせていただくと市内子育て支援活動団体等が主導して立ち上げた会議に市が賛同し、乳幼児を対象とした子ども及び子育てを支援する様々な事業、活動を連携して追求することを目的に協働運営をする会議の場となっている。資料9の各地区のこっこっひろば一覧が市内の様々な子育て団体の一覧表になる。資料21 親子ひろばと円卓会議の沿革と資料32の利用者支援事業の区市町村における取組事例集も以前に配っているのもう一度見ていただきたい。この円卓会議は国分寺市での子育て支援のネットワークについて話し合う場でもあり、市民のニーズを収集できる大切な会議にもなっている。次は第3回でお話した利用者支援事業の業務と重なっているが、国分寺市が名付けた子育て応援パートナーによる市内の子育て支援活動場所への巡回訪問であり、地域の子育て支援の情報収集を行いそれを提供する。それぞれの団体の強みを活かせるように市民の利用につなげていくこと、こっこっひろばの活動者へもそれぞれの団体の相互作用が成り立つようにつなげていくことをしている。また年3回地区ごとに分けて地区連絡会と称して各地区の団体だけが集まり横のつながりを持てるように開催し、ネットワーク作りを行っている。ボランティアの支援とそのネットワークについては、活動の場を提供することが主なものに今はなっている。年1回ボランティア交流会を行っていてそれぞれ活動の報告をしてもらっている。活動の内容は違ってもボランティアの志を持って活動していることを知るという大切な交流の場になっている。交流会で出会って個々に活動しているボランティアがコラボした活動が生まれたこともあった。以上が地域組織化事業の説明になる。次に事務報告書57ページ6番交流会イベント（☆はボランティアによる活動）で次のページに表があるが、このように様々な行事を企画しておこなっている。子ども家庭支援センターはハードルが高いという話もあるので、行事を行うことによって興味を持ってもらえるようなきっかけ作りになるように企画をしている。講習会やフリートーキング、木育ひろば、水遊び、地域交流等様々に行っている。☆はボランティアによる活動となっている。このように子どもと子どもを育てる家庭の支援につながるような活動、取組をしている。次に7の地域活動室はこの部屋になる。ここは予約をして貸切で使うことはできないが、子どもと家庭を対象としたさまざまな活動に利用できる部屋として提供している。8のたまりばっ！！はこちらの敷地に入ってくる時に、道路を背にして右側にあるプレハブで、たまりばっ！！という名前をつけて、小学生から18歳未満の子どもが自由に使える集まれる空間となっている。ここではおやつを食べてもいいし、ゲームをしてもよいし、マンガを読んでもよい自由な空間である。今日学校に行きたくないという中学生等がふらっと来て逃げ場のような空間になっていければと個人的には思っている。9番の広報活動だが、機関紙として年3回、幼稚園、保育園、学校、市内の公共施設に配るような形で2万部弱ほど作って配布している。次に市報・ホームページ、これも毎月市報1日号に掲載するとともに、ホームページも更新している。その他に子ども家庭支援センターのぶんちっひろばのチラシを毎月1回発行している。またツイッター、イベントチラシやポスター、秋口に行う保育所展示会ではパパ向けのチラシを配って広報している。すぐに利用につながらなくても、覚えてもらえるよう、広報に力を入れている。子ども家庭支援センター事務事業は地域担当としては以上になる。次に事務報告書の61ページ子ども家庭支援センター施設維持管理事務事業になるが、これはこの建物の管理になる。建物修繕や法務点検を業者に依頼して利用者が安全に利用できるよう環境整備をしている。このほかに子育て相談室の庶務も地域担当の業務になる。これで地域担当の業務の説明を終わらせていただく。

白井会長：質問や感想等あったらお願いしたい。

委員：58 ページの講習会やイベントはありがたいが、申込が必要なものはどれか。

野田係長：申込みが必要なものは、講習会になる。その他は自由にその時間に合わせてきていただくことになる。

委員：申込の方法はどうなっているのか。

野田係長：申込の方法は往復葉書になる。今のママは“往復葉書とはなんですか”から始まる。コンビニでも売っているので、それも勉強かなとは思っている。そろそろ見直しも検討しなければならないかもとの声はスタッフから上がっている。

委員：往復葉書を買に行き、書いて、投函するのはハードルが高い。電話で申し込みができると助かる。民間の講習会ではチラシにQRコードが印刷されていて、それをスマホで読み込むと申込のフォームが出てきて、名前や必要事項を入力して送信すると確認メールが送られてくる。手軽でとてもありがたい。よい講座がたくさんあるので、申込方法をもっと簡単なものにしていただくと、みんながもっと勉強できると思う。

委員：地域組織化事業のところで、子育て応援パートナーの中に子育て支援コーディネーターがいるが、先程はコーディネーターが抜けたという話だったと思うが、違うのか。

野田係長：28年度に子ども子育て支援コーディネーターを配置したが、その職員が2年で退職して、募集していたが希望者がなく1年たってしまった。来年度の31年7月に子育て世代包括支援センターを立ち上げようと準備しているが、そちらにコーディネーターを配置しようという話になっている。今現在、子育て相談室にはコーディネーターの役目の者が不在であるため、フロー図からはずしている。

委員：各地区ごとに子育て応援パートナーがいるが、コーディネーターが今欠員状態で組織替えの中でそれを補っていくということか。

白井会長：復習の意味で子ども子育てコーディネーターの役割と採用の要件を教えてください。

野田係長：とても難しい。子育て応援パートナーとコーディネーターを28年度から始めているが、手探りで作りこんでいる。近隣市でもこのような職員はいない。国分寺市では利用者支援員を子育て応援パートナーと名付けて、市内を巡回訪問している。他市では、利用者支援事業で身近な場所で相談を受けたり地域の社会資源の情報を収集して提供したりするが、国分寺市の場合はそれにプラスして巡回訪問をしている。現場で利用者と話して関係性が構築できれば相談にもつながっていく。

齊藤：補足すると、パートナーについては、以前配った資料32の事例集を読んでいただくとわかると思う。117ページの概要のところ上から3行目、利用者支援事業に従事する専門員は、子育て応援パートナーとして「横のつながり」と「顔の見える関係性」を大切に、市の子育て支援の中核を担っている。各種会議への参加や、市内の親子が集う場への巡回を行い、利用者が気軽に相談できる体制づくりに努めている。これがざっくりとしたパートナーの業務になる。コーディネーターの役割だが、コーディネーターも子育て応援パートナーの役割は持っているがさらにプラスの役割として、コーディネーターが所属している子育て相談室地域担当と子育て相談室の相談担当とつなぐことがある。親子ひろばやこっこひろばの中で心配な家庭があった場合スムーズに相談担当につなぐ、逆に相談担当が係わっている方が親子ひろばを利用する場合もあるので、情報を集約して支援につながるように、適切に親子ひろばのスタッフにフィードバックしていくという役割がある。その為には、親子ひろばの中の利用者さんの情報を集約していかなければならないが、コーディネーター一人ではできないので、応援パートナーと協力して市内の情報を集め

て、集約された情報をもって相談担当や地域の関係機関と連携を取っていくのがコーディネーターの役割となっている。要件としては、社会福祉士という資格者で子育て支援の経験を有するものとなっている。

前田室長：最初にコーディネーターを配置したいというところで、ソーシャルワークのできる職員を配置してほしいという話が円卓会議からも出ていた。そこで人をつけるにはどうしたらよいかということで、コーディネーターという言葉でソーシャルワークができる職員を要求した。社会福祉士ということにはこだわってきている。ただなかなか人が来ない、今回も募集したが1年間来なかった。野田係長から話があったように、来年度は子育て世代包括支援センターに配置することになっている。そこで今まで経験年数のところで子育て支援の経験年数が3年以上としていたが、来年度の募集は福祉関係の仕事に従事していた経験があること変えたのと、社会福祉士の資格も取得見込可ということで募集をかけた。応募が1名来ているときいている。その方の資格が取れて配置になるとよいと思っている。

白井会長：資格がとれなかった場合はその方はどうなるのか。

前田室長：採用されないことになる。

前田室長：最初に配置した時は手さぐり状態でパートナーと同じような動きをしていて、どういう動きがよいのか1年手探りできて、まだ整理がつかないうちに、人がいなくなってしまった。

委員：その人の役割は、緊急時の相談対応ルートでひろばと相談担当をつなぐ重要な役割を果たしているのですよね。コーディネーターが欠員の今は親子ひろばからの緊急時の相談はどこに行くのか？野田係長の所にいくのか？

野田係長：子育て応援パートナーは今4名いて、そのうち3名が各地区を巡回訪問している。子育て応援パートナーの残った1名の齊藤がコーディネーターの役目をしている。

白井会長：齊藤さんは業務を兼ねることになると思うが、その負担感はどうか。本来のコーディネーターがいることによってより中身が充実するということか。

齊藤：兼務でできる仕事ではないと思っている。パートナーを取りまとめる仕事もあるし、昨年までいたコーディネーターの方は相談担当の中での報告の会に出席していたが、その中で名前があがってくると“あの人だ”とぴんときて、うまいつなぎができていた。業務上必要な方だったと個人的に思っている。

白井会長：来年度に立ち上がる子育て世代包括支援センターに配置される方は、以前のコーディネーターに近い業務を担当いただけるのか。

前田室長：早めに配置になったら引継ぎという形を考えていた。それがなかったのでできなかったが、しばらくはこちらでやっていた業務を経験してもらうのは必要だと思っている。健康推進課と連携しながら引継ぎのようなことはしていきたい。

委員：59ページの広報活動のところで、チラシ等を市内で配っているが、資料33で他の市民の登録数が思ったより多いと感じたが、私自身が北町の一番端に住んでいて、国分寺市の親子ひろばだけでなく、小平市や立川市の児童館や子ども家庭支援センターも利用させていただいている。市報に国分寺市の子育て情報が載っているが、北町からは遠いところが多く、情報が自分の行けるところと違うと感じている。小平市とか立川市の親子ひろばのチラシを互いに見られるようにすることはできないか。北町の親子ひろばで子ども家庭支援センターのチラシを見て行事に参加したこともあったが、小平の児童館の行事のチラシを北町親子ひろばでもらえると行事に参加できるが、それは難しいのか。

野田係長：小平の子ども家庭支援センターからチラシをもらっていて配布している。あとは、市によっては他市民を受け入れていないところもあったり、受け入れていても利用できる時間を市外枠で制限を設けている市もある。すべての情報をもらっても、国分寺市民として使えるとは限らない。こちらでそこまで精査することはできないので、自分で他市のホームページを見ていただく形になってしまうと思う。

前田室長：スポーツセンターの親子ひろばは小平市民の利用が多いので、そこには小平の情報を置いている。

小川副会長：北町親子ひろばにも、子ども家庭支援センターからチラシを送ってもらって置いている。きららというNPO団体のピンクのチラシと小平の子ども家庭支援センターのお知らせを置いている。ただ、ニーズがあまりないので2、3枚だけ置いている。

委員：近くのひろばでは知っている人がくるので、相談内容によっては他市のひろばで相談したい場合もありうる。他市との連携と情報共有もあるとよい。楽しそうなイベントがたくさんだが、例えばクリスマス会でおやつがでたりとか、物を食べることができるようなイベントもあるのか。

野田係長：クリスマス会でおやつを出すようなことはないが、食育の講習会を行っているので、うどん作りをしてそれを食べる講習会と乳幼児向けの栄養の部分で離乳食を作って試食する講座がある。あとはぶんちちまつりで、ポップコーンを出したり、市内の福祉作業所がクッキーやパンを販売している。

委員：意欲がある人は良いが、エネルギーレベルが下がっている人には、安く食べられるのは動機づけになる。

委員：地区連絡会が三つの地域ごとに年3回開かれている。円卓会議を毎月やっているのに、これには意味があるのか。

野田係長：意味はある。

委員：個人情報が出るような情報交換はできませんと毎回アナウンスがある。みんな忙しいのに苦労して集まるのは、時間がもったいないようにも感じる。

野田係長：最初は“地区連絡会って何やるの”という反応だったが、今やっと団体さん同士が顔の見える関係になってきた。円卓会議は50人以上来る会議になるので、ごく短い時間で活動についてお話ししてもらうが、内容がよく見えない部分があるし、発言も難しい部分がある。グループをもう少し小さくして話がしやすい空間を作っていこうと各地区に分けてそういう場を作っている。隣に座っている団体が何をやっているかがわかったり、その地区で問題になっていること例えば大きいマンションが建ってひろばの利用が増えたとか、地区ごとの保育園の話ができたり、地区に分けてやることのよさが出てきている。会場も同じではなく、各団体が活動に使っている場所を借りて地区連絡会を開催している。いつ見学に来てもいいよと言われていても、行く方としてはハードルが高いが、会議開催することによって、活動団体が活動している場を知ることができたりと、大切な場になっている。

白井会長：応援パートナーの立場から武田さんにお話を伺いたい。

武田：“地区連絡会って意味あるの”という声はいただく。中央地区のパートナーとして、会議を企画して開催するが、私自身“意味あるの”と思っていた時期もあった。意味があるものにしていかなくてはと意識を変えて、どういう内容でやればみんなに意味を感じてもらえるか、考えに考えた。今年度の2回目の連絡会では市内の子育て支援はどういうものがあるか地図に落とすワークを行ってみたりとか、内容を変えて実施した。少人数のワークを行ったことで、距離が近くに

なり、ワークの後の情報共有も今までと違ってきた。講演会のチラシを活動団体に配るときも、今まではその場所に置くだけだったが、これ面白そうだから行ってみてとひろばの利用者に勧めたりと具体的なことを伝えることができるようになって反応が違ってきた。こちらが内容を変えていけば、来てくださる皆さんの意識も変わってくる。子育て支援のネットワークがもっと広がって活発になっていくことを目指して、工夫しながら、みんなで作っていききたい。何が求められていて、どういうことをしたら行く意味があるのか考え工夫しながら、今後もやっていきたい。

白井会長：月1回開催とのことだが、参加人数と時間を教えていただきたい。

齊藤：今の質問は、月1回開催している3地区拠点連絡会ではなく、各地区連絡会についてである。年3回開催している。

小川副会長：資料9に各地区のこっこっひろばがあるが、各地区のパートナーが仕切って各地区のこっこっひろばを対象に地区連絡会を開催している。

前田室長：国分寺駅、西国分寺駅、国立駅とそれぞれ徒歩15分圏内に拠点の親子ひろばを作りたいという目標がある。東部地区と西部地区には拠点の親子ひろばがある。中央地区は未整備であるが、子育て応援パートナーが子ども家庭支援センターから巡回している。

小川副会長：先程の地区連絡会の補足だが、市の職員も民間もいろいろな人がいて、正直すごく温度差がある。各団体のカラーもあって温度差をなくすことはできないが、よさをお互いに理解することはできる。温度差を少しでも縮めていくことが地区連絡会のよさだと思っている。円卓会議ではなかなかできない。あのひろばで言われた言葉に傷ついたとか、こういうことをやってほしかったとか聞くことがあったら、“こういうことを聞いたけれど・・・”とそれを伝い合える場、それが欠点ばかり探るのではなくお互いにいいところを出し合えるように改善していくのが、地区連絡会に必要な要素かなと思っている。意識が高いと“いつまで何やってるの”となっていくところがあって、その調整はパートナーにとっても難しいところだと感じる。

白井会長：この地区連絡会はいつから始まったのか。

齊藤：平成28年からである。

白井会長：参加者はどのくらいか。

野田係長：資料15の57ページの上の方の表に載せてある。

齊藤：120ページの上段の部分に3地区拠点ひろば連絡会と各地区連絡会の説明がある。

白井会長：できたら次回この図の拡大版をお願いしたい。今回の諮問が今までの事業の課題抽出とその解決策についてということで、平成28年度以降いろいろな取組みをされていて変わってきた部分もあると思う。新しい活動も正確な内容を把握しておきたいと思うので、地区連絡会がどんな内容かわかる資料があれば可能な範囲で見せていただきたい。

委員：資料15の58ページで市としてたくさんの講習会・イベントを実施しているが、この中で兄弟に観点到スポットをあてているものはあるか。乳幼児がいるご家庭では初めてのお子さんだといろいろわからないことがたくさんあって心配だろうし、ましてやハンディキャップを持つお子さんを育てるのは大変だと思う。最近見るのは兄弟が犠牲になっている場合で、下の子にはたくさん遊ぶ場があっても、上の子にはつまらない、行きたくない、そうするとその家は上の子に合わせて行かなくなる。あるいは兄弟にハンディキャップがあると、ハンディキャップのない兄弟の方の情緒がおかしくなる。ある自治体で病気の子どもの兄弟だけをターゲットにした事業を実施したことがあったが、それには1,000人以上が押し寄せたそうである。病気やハンディキャップで手がかかる子どもだけでなく、その周りにいる兄弟で困っている家庭もけっこうあるのでは

ないか。兄弟という観点の事業があると新しいアプローチが見えてくるのではないかと思う。61ページの事務事業評価をみると拡大・拡充となっているが、どう拡大していくか、一人目で困っているご家庭と兄弟がいて困っている家庭もあるので、ターゲット層を分けて拡大していくのもありだと思う。

白井会長：つくしんぼでも障害をお持ちのお子さんの兄弟を対象にしたものを何かをやっているのか。

前田室長：つくしんぼでは兄弟姉妹の会というのがあって、年4回兄弟だけが集まってリフレッシュする時間を設けたり、兄弟同士で話をして悩みをうちあけられる場を設けている。

野田係長：先ほどの講習会・イベントの中のみんなで子育てフリートーキングではテーマを決めて話すこともやっている。必ず毎年やっているわけではないが、その中で兄弟について話す回もある。ぶんちっちひろばでは、基本は0～3歳までのお子さんを対象にしているが、幼稚園に通っているようなお子さんを排除しているわけではなく、一緒に来てもいいよと話している。小学生のお兄ちゃんお姉ちゃんも小さい子と遊んでねとミニスタッフの名札を渡してひろばに入ってもらったりもしている。

前田室長：今話に出た視点は大事だと思うので、イベントや普段の接し方もその意識を持つことが大切だと思う。

小川副会長：国分寺の青空ひろばは公園でのひろばであるが、下の子はシートをひいてお母さんといたり、スタッフが見たりしている。上の子が公園で自由に遊べるのは、国分寺ならではで、イベントではないが公園でこうやって遊べるよという見本を見せるところでもある。イベントを開催するとその中で悩みを打ち明けられたりもするので、イベントをやることは必要だと感じる。

白井会長：講習会やイベントをやる時、いろいろな親御さんがいることを前提として、親子で来やすい状況を配慮していくと、意味のある拡充になると思う。

委員：今の青空ひろばの話で子どもが大きくなってくると、室内で遊べなくなって青空ひろばに行くようになるが、普段は下の子と親子ひろばに行っても幼稚園の春休みや夏休みには上の子と青空ひろばに行きたいが、青空ひろばも多分スタッフさんの関係で春・夏・冬休みはお休みになってしまって、動けなくなってしまう。上の子がいると春休みや夏休みは相談したいことがあっても難しいので、兄弟のイベントをやるなら時期も考えていただきたい。

小川副会長：国分寺は児童館の中で学童をやっていたりするのですが、長期の休みは児童館も使えないというのがある。児童館は未就学児が遊ぶにはよいところなのに、使えない。

委員：皆さん移動は徒歩で、車でというニーズはないのか。

小川副会長：子ども家庭支援センターには駐車場があるが、他には駐車場があつて車でいける場所がない。

委員：コインパーキングを利用している人もいる。

小川副会長：ファミリーマートが全国展開として子ども食堂をやるといふのを知っている方もいると思うが、バイトテロの動画が問題になっている現状があるなか、アルバイトしかいない夜のコンビニに子どもが行くことを想定した時に、市民がどこまで見守れるのかとか犯罪は起きないのかとかを危惧している。円卓のメンバーが直接ファミリーマートに聞いても、何も申し送りがなくて、コンビニとして何かやるつもりはないというところがあったりする。地域の中で顔の見える関係性をコンビニとも作っていくことは大切だが、コンビニは時間でスタッフがくるくる変わったり、アルバイトしかいない時間帯があったりするのだから、そこでのコミュニケーションの取り方が地域の中

でも課題になってくると思う。地域担当は乳幼児に特化しているが、今後はそういう人たちも巻き込んでいかななくてはならないと感じている。

委員：色々な視点があるなと感じたのと、参加しやすいようにするために、親の事情とかを配慮する必要がある。兄弟の視点は新しかった。私の時には、上の子に合わせて下の子が一生懸命ついていっていたように思う。色々なサービスが提供されている中で選択できるような形にしていければ、参加しやすいのかなと思う。

白井会長：59 ページ8 番のたまりばっ！！がすごく気になっていて、野田係長の思いも伝わってきたが、その割には1 行しかなくてたまりばっ！！の説明がよくわからない。これができた経緯とか、どういう位置付けか、どういう関わりをしているのかとか、開設時間などを可能な範囲で教えていただきたい。

野田係長：たまりばっ！！のプレハブはもともと職員の事務室だった。その後事務室が移った後たまりば！！という名前をつけて小・中・高校生の居場所にしようとなったが、半分倉庫のような形で使っていないロッカーが置いてあったりと雑然としていた。28 年ごろから部屋を来やすいように工夫して、段々利用者も増えてきて、学年が違くと利用しにくいので、3 つの空間に区画を分けた。小学生がゲームをしている空間の隣で、漫画を読んでいたりと、奥で高校生が勉強をしたりとうまく使っていた。一つのグループだけの時には鬼ごっこをしていた時もあった。わさわさとするさい時もあったが、制限を作りたくないと考えている。

前田室長：もともと健康推進課のひかり保健センターが使っていた。そこが10 年使わないといけないう縛りがあったが、それが過ぎて移管できるということになり、こちらに譲られたという経緯がある。子ども家庭支援センターは18 歳までの施設なのに、親子ひろばは主に3 歳までなので、そこをどうするの？となった時に、“いい空間があるね。そこを活用しよう”とスタートした。

白井会長：利用できる時間帯を教えていただきたい。

野田係長：子ども家庭支援センターと同じで、火曜日から土曜日の9 時半から5 時になる。なので中学生・高校生は難しいかなという所はある。

白井会長：学童はうるさくていやだから、抜け出してこちらに来るとかはしないのか？

前田室長：抜け出してくる子はいないと思う。

齊藤：隣のひかり児童館で居場所のないお子さんはここを使ってもよいと言っている。

委員：大人の利用はないのか。

野田係長：午前中は小・中・高校生はいないので、ぶんちっちひろばが一杯になった時、使うことはある。

委員：スタッフが常駐している訳ではないのか。

野田係長：していない。事務室の窓ガラスと対面しているので、カーテンを開けてそっと様子を覗いてみたりはある。お昼を買いに行ったりどこかへ出かける時は、意識して見るようにしている。

前田室長：大人がいるよということを伝えなくてはいけないので、たまりばっ！！利用の子どもたちには“こんにちは”と挨拶するようにしている。

白井会長：たまりばっ！！の941 人というのは、どういうカウントなのか。

野田係長：たまりばっ！！を利用する時には、1 階のカウンターに用紙があって、小学校名、学年、フルネームと何かあった時に連絡が取れる電話番号を記入してもらうようになっているので、それでカウントしている。中には慣れてくると書かない子もいるので、用紙には3 人しか書いていないのに、もっと多くの人数が遊んでいるような時には、用紙を持って行って“書いてない子は

書いて！”と言うこともある。

白井会長：スマホやゲーム機も持ち込み可なのですね。危ないなと思う時はないのか。

野田係長：ソファでジャンプをしたり、部屋で鬼ごっこをしたりする。その場合も“ここは運動場じゃないよ。もうちょっと抑えてね。”と言うくらいで、無理やりやめさせるようなことはしない。多少羽をのばしてもいいよと見守っている。

白井会長：中学校がある時間にたまりばっ！！に中学生がいるというようなことはないのか。

野田係長：中学生はないが、小学生がいたことがあった。見つけてもすぐにはぞろぞろ聞きに行かないで、頃合いを見てひろばスタッフが優しく声をかけるようにした。

白井会長：保健室登校や居場所が問題になっている今、たまりばっ！！は可能性を秘めていると感じた。残り時間もなくなってきたので、次回以降の確認をしたい。今回の答申は子ども家庭支援センターの事業の課題抽出とその解決策についてということになる。今回で4回目ということで地域担当の部分を中心に行ったが、この部分だけでも今後を考えるとタイトになるので、今期の答申については、地域担当の事業に限定させていただいて、次期に相談担当の事業をやるのかと考えているが、何か意見はあるか。

委員：感想になるが、最初に任期が2年と聞いた時には、協議をする期間としては長いと感じた。相談担当の事業の協議が終わる4年後にはまた時代も変わってくる。協議に時間をかけることはよいが、期間を短くすることはできないのか。

白井会長：当初の予定では、6月、9月と協議で残りの2回がまとめとなる。残りの相談担当の事業の説明が2回で終わらせるのは難しいとなると、子育て世代包括支援センターもでき時代も変わってくるので、相談担当の部分はまたその時にあわせた内容でやっていくのも方法かと思う。相談担当の部分は事務量的にはどうなのか。

前田室長：次回に資料35の128ページの図の地域から相談につなぐ部分の説明ができればと思う。それ以外にショートステイ事業、ひとり親ホームヘルプサービス事業、育児支援ヘルパー事業がある。2回程度は必要かと思う。

小川副会長：社会情勢が変わると変えていかなくてはならないのに、年数が掛かるとまた施策にあげるのにも年数が掛かってということだと思う。できれば社会情勢によりこう変わってきて、今後の課題がここにあるという点がわかれば、次に進みやすいと思う。詳しい事業内容がわからなくても、変えてきたものがわかれば良いと思う。

主代係長：事業がわからないと、変わってきた部分を説明するのは難しい。

小川副会長：国分寺市でおこった心中事件の後、どう改善されたかがわかるだけでも違うと思う。今虐待予防が盛んに言われているが、虐待対応と虐待予防の大きな観点の差というか、その辺の取り組みを相談担当としてどうやってきたかがわかると、社会情勢に合わせた変化がくみ取れるかと思う。相談は地域より事業を把握するのが難しいように思う。

主代係長：相談担当が何をやっているのではなく、一番変わったのは連携の部分だと思うので、その部分はお伝えした方がよいと思う。ただ、説明が長くなると協議まとめの時間がとれなくなるので、時間的にどうかと思う。

委員：時間はかけなくてはいけないと思うが、運営協議会が3か月に1回、2時間で2年かけるというのは、市が決めたのか。

前田室長：2年というのは条例で決まっているが、課で予算を立ててこちらで回数を決めている。

白井会長：運営協議会の位置づけは市長に対してこういうことを協議して諮問をあげるというもの

で、2年という期間はしっかり考えなさいということだと感じていた。

委員：2年をかけて課題と問題点を出して、市がそのあと予算を要求して施策に反映させると4年はかかるので、先程の意見はそれが長いと感じるのだと思う。今回で4回かけて地域担当の事業を理解できたのだが、勉強するのに1年かけるのは、やはり長いという気はする。市の事業を理解しないと課題も出せないのはあるが、説明の部分をもう少しかいつまんでいただいても、大丈夫だと感じる。資料にしっかり書かれているので、読めばわかるという部分もある。課題の抽出の後の検討に時間がかかると思うので、説明は資料の補足程度でよいと思う。回数を増やさずに高速化するには、その方法しかないと感じる。

白井会長：相談担当の事業のうち、地域担当と係わりのある部分、相談担当とどうつなげていくかというところで、地域担当がメインの答申になるけれども、相談担当とこうつながっているという流れの部分を出していただくと、議論がしやすいかと思う。

主代係長：4回かけて地域担当が事業を詳しく説明したが、資料35の128ページの部分になると思うが、②が地域担当 ③が相談担当だが、相談担当が何をしているかではなく、地域担当がどうつなげていくかという部分がまだ説明できていない。その説明の後で相談担当としては受理会議を経てケースとして支援していくのか、地域担当に見守りを依頼するのかというところになるので、それが3拠点の連絡会の部分ではないかと思っている。事業としては説明しているので、流れの部分だけを野田と主代が30分くらいで説明させていただくことはできると思う。

白井会長：相談担当の単独での業務があると思うが、それがどう親子ひろばとか地域担当と連携しているのか、そのつながりがわかると地域担当の業務の理解も深まっていくと思うので、そのような形で次回の前半で進めさせていただき、残りは協議に入りたいと思う。次回までに送られた資料や議事録に目を通していただいて、これまでに質問や意見が言えていなかった部分等があればピックアップしていただければよいかと思う。今日で砂原委員が最後だと伺っているので、皆様にご挨拶をお願いしたい。

砂原委員：市内の保育施設の保護者の代表者という区分でこの会議に参加していたが、今年度でその資格がなくなってしまうので、これで最後となる。1年間子育て支援ということで、市の方から説明をしていただいたが、国分寺市がしっかりやれているのと皆さんが子育て支援に関心を持っていることがわかった。力添えはできないが、今後にどんな答申がでるのか期待している。1年間どうもありがとうございました。

白井会長：次回の日程は6月29日（土曜日）の午後1時から3時としたい。今回事務報告書で説明いただいたが、資料16に相談担当と地域担当の職務内容が書かれているが、可能であれば地域担当と相談担当で所管している事業名が一目でわかる資料があると議論しやすいかと思う。

野田係長：資料3で組織図があつて、その下に事業が書かれているが、それではだめなのか。

白井会長：事務報告書に沿っての説明は詳細でわかりやすかったが、先ほどのたまりばっ！！のように説明していただいた事業が出ている方がわかりやすいかと思う。名前は入ってなくてもよいので、可能であればお願いしたい。

前田室長：資料4や資料8もあるが。

白井会長：資料8がイメージに近い気がする。

齊藤：資料8は、資料32の120ページの右上の表とほぼ同じである。

白井会長：具体的な事業と照らし合わせることができるので、できればお願いしたい。次回もよろしく願います。砂原委員、1年間ありがとうございました。